

令和5年度

学校評価報告書
(後期)

鬼北町立日吉小・中学校

令和6年2月29日

令和5年度「地域とともにある小中一貫教育」に関する自己評価書(後期)

鬼北町立日吉小・中学校

分野	目的	目標(評価指標)	評定 小中	評価資料の分析	考察及び改善策
小中一貫教育	義務教育9年間の一貫した指導による教育の質の保証・向上	①乗り入れ授業やICT活用等により、児童生徒の学力の向上を図る。	B B	乗り入れ授業やICTの有効活用など、小中で連携した取組がなされた。小中ともに基礎・基本の定着に課題が見られる児童・生徒がいる。また、各種テスト等の学年のばらつきが大きい。	児童・生徒一人一人の課題を捉え、個に応じた指導方法を工夫し、個別最適な学びの実現に努める。 国や県の学力診断結果、10分間集中テスト結果などを分析し、児童・生徒のつまづきに対する適切な指導を継続して行う。
		②小中合同行事を実施することにより小中学生の交流の場をつくる。	A A	日吉大運動会・きほくふれあい音楽会の実施など、これまでは制限されていた行事等も含め、小中合同の活動や交流が活発に実施できた。	小中連絡会における情報交換の場を定期的に持ち、小・中学校の教職員が意識統一できるよう心掛ける。児童・生徒が主体的に活動する場を設定し、リーダーの育成を図るとともに、良好な人間関係を醸成する。
		③9年間を見通した系統的なカリキュラムによって「郷土学」を実施する。	A A	年間指導計画と地域コーディネーターの支援により、充実した学習活動を展開できた。9年間を見通した系統性について、より良いものとなるよう再検討していく。	実施内容の検討を行った際に、次年度の「郷土学」における計画を立案し、年間の行事計画の中に配置していく。小中9年間のつながりを意識した計画を考えていく。
学校運営協議会委員の所見		<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒の少ない中、各種の工夫で活発な学校運営に努めている。 ○ 児童生徒数、教職員数が減少する中、小中9年間のつながりを大切にいく上でも、小中学生の交流の場をより多く設定することで、少人数のデメリットがカバーできると考える。これまで以上の工夫を期待する。 ○ 小中合同行事を実施することで、他の学校にはない経験をたくさんしていることを子供たち自身も理解してほしい、自慢に思ってもらいたい。それが自信につながれば、もっと積極的になれると思う。 ○ 制限されていた行事も再開され、児童生徒たちも生き生きしていたと思う。 ○ 学力のばらつきはどうしても起こると思いますが、家庭での指導も大切だと思います。 ○ 他校に見られない乗り入れ授業は、即効性より、中学校や高校で、生徒の学びに生かされる。教師の英語力の高さの影響が大きい。 ○ 日吉地区大運動会では、中学生のリーダーシップと保育園児や低学年へ温かく接するなど小中一貫教育の定着が人格形成に役立っている。 ○ 郷土学は、ふるさとへの愛と良さを多くの方々の惜しみない支援によって育成されている。児童生徒もそのことをよく自覚している。 ○ 四万十街道ひなまつりは、おひな様の展示を協力してもらっているが、本年度は、いきいき会にも参加してもらい会員との交流が図られ、より理解が深まった。 ○ 課題の見られる児童生徒や成績の低い者に対する個別の対応を行う。 ○ 日吉小中学校は、唯一食堂があり、常に作り立ての給食が食べられることに感謝。人数も少なくなり、中学校も食堂を利用して食事をするようになればよいと思う。小学校とは時間差があり、毎日は大変かもしれないが、せっかくの施設なので毎日利用できればと思う。 ○ 新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、従来の活動が戻り、交流する機会が多くなり、全体が明るくなった。 ○ 児童生徒の個々の性格、学力にあった指導を感じる。それぞれの人格を尊重している子供たちの姿が見えたと思う。 		学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中連絡会等での児童生徒の情報交換を今後も充実させ、生徒指導面・学習指導面の両面で共通理解を図る。また、学習面においては、個に応じた指導を小中学校で継続して実施する。 ○ 小中合同の行事、児童生徒の交流活動の在り方を検討し、今後も継続していく。 ○ 児童生徒の学力向上を目指し、今後も、乗り入れ授業や、小中教員による授業研究により小中一貫教育の更なる充実を図る。 ○ 小中合同での食堂の活用は、給食時間の違いや4時間目の授業の終了時刻の違いを考慮し、学期に1・2回の合同給食を実施する。

地域に開かれ信頼される学校づくり	④学校運営協議会での意見を学校教育に反映する。	A A	今年度も、図書館への新聞の掲示などを、委員からの意見を参考にして、実行した。今年度は、小・中学校の教職員を含めた熟議を実施することができた。	学校運営協議会でいただいた意見を、実現可能なものから実行していく。また、その後の状況を共有していく。	
	⑤学校教育の実態を把握できるよう、学校運営協議会委員に教育活動を公開する。	A A	学校行事への参加の案内、通信やホームページでの紹介などを積極的に行った。	学校運営協議会委員が教育活動を参観しやすい日程調整や早目の案内送付を行う。今後も、授業公開等の情報提供を積極的に行い、開かれた学校づくりに努める。	
	⑥教育活動の状況について地域住民に情報提供を行う。	A A	学校における活動の様子を、学校通信やホームページ、ケーブルテレビなどで積極的に発信することができた。	今年度実施した地域アンケートでは、ボランティア通信（全戸配布）、ケーブルテレビ、各種通信（学校通信は全戸配布）の順に学校の様子を知ることができるとあった。今後も、地域住民への情報提供を意識した情報発信を継続していく。	
コミュニティ・スクール	学校運営協議会委員の所見		<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域といかに連携していくか。よく取り組まれている。 ○ 今年度第3回学校運営協議会での「熟議」で出された貴重な意見が、より多くの地域住民に周知できるようにならないものか。ケーブルテレビでは、流れたが一過性で終わりの感がある。伝えたい情報量が多いので難しいかもしれないが、誰かが「学校運営協議会」の存在をアピールしてほしい。 ○ 児童生徒数が少ない中での活動は、いろいろと工夫されるのも大変だと思うが、これからも地域の方を巻き込んでの機会を増やしてほしい。 ○ 児童生徒のことを考える環境になっていると思う。 ○ 学校運営協議会で提言したことが、次年度の学校経営や教育活動に取り入れられるか見守りたい。 ○ 教育活動への情報提供はこまめになされ、関心を高め、学校への支援を強めている。 ○ 学校日より、ホームページを見ない人へは、直接学校を開放し、子供たちを見てもらう。 ○ 学校通信やケーブルテレビ放送をととても楽しみにしているという住民（特にお年寄りの方々の意見）の声を聞きます。学校通信がだぶって届きます。学校運営協議会委員も地域住民の一人です。委員には発送しなくてもいいのでは。 ○ 地域の中にある学校として、地域の方々も積極的に協力されており、よい連携ができていると思う。コーディネーター及び先生方の努力のおかげである。 	学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校運営協議会の熟議で出された意見については、全戸配布のボランティア通信に掲載する。 ○ 学校運営協議会でいただいた提言を真摯に受け止め、学校での具体的な対応策を実践し報告する。 ○ 通信の配布については、配布の時期が3週間近く遅れるので、今まで通りとする。 ○ 6月の参観日は、全戸に案内を呼び掛けた。今後も学校行事や参観日等、学校公開の機会を工夫する。 ○ 今後もホームページやケーブルテレビ等を活用し、日々の教育活動の情報発信を積極的に行う。

地域学校協働本部	学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制づくり	⑦地域ボランティアの方による学校支援活動を実施する。	A A	郷土学における学習支援、登校指導などの安全支援、環境整備支援など、多くの方々の協力を得ている。	地域コーディネーターとの連絡を密にとり、計画的で継続的な活動を続けていく。
		⑧学校支援の状況について、地域住民に情報提供を行う。	A A	地域の方に協力していただくPTA奉仕活動（アルミ缶等の回収）や日吉地区大運動会について、積極的に情報を提供することができた。ホームページやボランティア通信等を有効に活用し、情報発信に努めた。	今後も、情報提供の時期や方法を常に検討し、素早く正確に伝える。また、日々のホームページの更新、ケーブルテレビやボランティア通信による一層の情報提供に努める。
		⑨地域コーディネーターが、主体的かつ効果的に活動できるようにする。	A A	学校行事における調整等を、地域コーディネーターと綿密に行うことができた。	余裕を持った計画の立案や状況に応じた対応ができるよう、また、地域との連携が円滑に図れるよう、地域コーディネーターとの連携・協力を効率的に行う。
学校運営協議会委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> ○ よくやられている。 ○ ケーブルテレビや通信などで、情報発信、情報提供は適切になされている。少しでも地域の住民に学校に目を向けてもらいたい。 ○ 地域の方への情報発信をして、ケーブルテレビや学校通信はとても良かったと思う。地域の方からもいろいろな声が聞けました。 ○ 地域の方々も温かく、児童生徒にとって、非常に良い環境にあると思う。 ○ 郷土学に関わった方の人数の多さに、子供を育てていこうという強い意志を感じる。 ○ 日吉地区見守り隊、放課後子ども教室のサポーターとの協力体制が整っている。 ○ コーディネーターもベテランとなり、学校と地域をつないでいく力量が備わってきた。感謝。 ○ 少人数での様々な活動は、先生方をはじめ保護者の皆様にもただならぬご苦労のことと思う。全てが児童生徒の成長に反映されると思っている。日吉の子供たちのためにこれからも頑張ってください。 			学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員と地域コーディネーターとの協力体制を密にすることで、地域に根差した教育活動の展開と更なる地域連携を図る。 ○ 学校と地域、双方向の情報ネットワークを充実させる。 ○ 見守り隊、放課後子ども教室のサポーターとの協力体制を更に強化していく。